

# きずな(絆) No.28

発行:全日本民医連 震災対策本部

★★関連情報・重要なおしらせを全日本民医連 H.P に掲載しています。活用してください。

## 全国の仲間で被災者のもとへ！民医連綱領の実践を

### ■「坂総合病院への地域住民の信頼感を感じる」愛知・名南会



愛知民医連「第4次医療支援隊」の事務からの報告です。「看護師は診療支援や避難所回りを行ない、私たち介護福祉士と事務は、避難所回りや地域回りをしました。地域回りでは津波被害の酷い七が浜をまわり被害の甚大さを目の当たりにしました。ライフラインは、あと水道だけが復旧していませんが、配給でなんとか生活できているようです。避難所で生活している方に足浴を行なったところ非常に喜ばれています。この支援で、坂総合病院への地域住民の信頼感、民医連の一体感を感じています。」

(「東日本大震災 愛知民医連支援ニュース No.9」4/2 より)

### ■「継続した支援隊の派遣や義捐金の取り組みを確認」徳島民医連

医療支援第2隊の「報告集会」を3月29日に開催し、職員・組合員50名が参加しました。冒頭、大震災で亡くなられた方への黙祷を行い、その後、児嶋誠一県連会長が、現地の生々しい様子や支援に入った松島海岸診療所での歯科支援の報告を行いました。医師と看護師からは、帰任直前の朝まで従事していた当直支援の様子と避難所での診療や活動の報告が行われました。最後に、来週から第4隊の派遣、引き続いた義援金、支援物資の取り組みを継続していくことを確認しました。

(徳島民医連「東日本大震災支援ニュース No. 10」3/30 より)



### ■「民医連に就職のきっかけが阪神淡路大震災」福岡・千鳥橋病院



医療支援の報告集会を3月31日に開催し、164名が参加しました。震災発生直後の3月13日に派遣された第1陣から4陣までの各支援部隊が報告に立ち、被災地の大変な実情と支援の状況、そして急性期の対応が求められた初期の支援から、時間の経過で慢性期対応や生活支援へと求められる支援のステージが変化していることが報告されました。全国から支援に駆けつけた民医連の仲間が、自分たちで考えて物を調達し、「足浴部隊」を組織したり、肺塞栓予防の体操を行ったりしているといった報告に、千鳥橋病院院長は「これぞ民医連の活動であり、単なる医療支援ではなくこのような支援ができるところが民医連のすばらしさである」と強調しました。参加者から、「報告を聞いて、民医連の行動力、団結力に感動した。民医連の一員で幸せ」「困難なところに民医連ありという言葉は、本当にそうだった」「民医連に就職しようと思ったきっかけが阪神淡路大震災だったことを思い出した」などの感想が出されました。また、小西恭司理事長(全日本民医連副会長)より、福島第一原発からの避難者の受診に対する対応についての提起があり、意思統一を行いました。(東日本大震災「千鳥橋病院支援ニュース4月1日号」より)

**<おしらせ> \*\*\*\*\***

○法人・事業所・県連が発行された支援ニュースや新聞報道掲載記事などは、[info@min-iren.gr.jp](mailto:info@min-iren.gr.jp)(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。

○全日本民医連HPで関連情報・動画を掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しよう。

\*\*\*\*\*